

台湾における日本研究の変容

于 乃明

(う・ないめい／国立政治大学日本語学科教授)

台湾は日中戦争の影響のため、国民党時代に日本語学科、あるいは東方語文学科を設立できたのは文化大学(1963年)、淡江大学(1966年)、輔仁大学(1969年)、東呉大学(1972年)の四校だけであった。国立大学の中では、1989年に政治大学が初めて東方語文学科の中に日本語組を設立し、日本語教育史に新たな道を開いた。今日台湾では46の大学が日本語関連の学科を開設し、18の大学が修士課程を設けている。博士課程を設けたのはこれまで東呉大学だけだったが、2014年9月に政治大学国際事務学院日本研究学程も博士課程を設置する予定である。

2010年以前の状況を概観すると、台湾の日本語教育界では言語、日本語教育、文学を中心に学生を育ててきており、歴史、文化などの領域では学生が少なく、政治、外交、経済の分野の学生はさらに少なかった。しかし、社会環境の変化に応じて、2009年に政治大学に当代日本研究センターが設立されて以来、師範大学、中興大学、東海大学、中山大学、輔仁大学、台湾大学が次々と日本研究センターを設立した。研究の重点は言語、文学から歴史文化、産業、経済、社会、法律、政治・外交へと領域を広げた。

今日では学科を越えた学習や研究が求められるため、日本語学科の学生が他学科の単位を取り、ダブルメジャーや副専攻にできるようになった。逆に他学科の学生も日本語学科をダブルメジャーや副専攻に出来るようになってきている。これにより日本研究の領域も益々多元化し、豊かになるだろう。

現在、毎年日本に留学する学生は学位を取るか短期留学かであるが、にもかかわらず、日本語学科以外の学科の学生が明らかに増えてきた。そのため、日本語学科の学生は言語能力以外に、他の専門知識の能力も必要となってくる。でなければ、他の学科の学生はダブルメジャーや副専攻を通じ、将来職場では日本語学科の学生の強力なライバルになる可能性が高くなると予測できる。各大学の日本語研究所(大学院)が魅力ある特色をつくり出そうと真剣に論議し始めている。そして各校の日本研究センターでは、今のところ政治大学と台湾大学だけが単位を取得できるプログラムを設置しており、校内の他学部や大学院が、例えば商学、法学、社会科学、国際関係と日本語学科の教員を集めて、共同的に日本研究に関する授業を支えている。これは新しい日本研究のトレンドである。

日時：2014年 7月28日(月) 18:30～20:30

場所：法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー25階 B会議室

司会：王 敏(法政大学国際日本学研究所専任所員、教授)



参加申込：以下の申込専用フォームからお申込ください

<https://www.event-u.jp/fm/10390.html>



法政大学国際日本学研究所
nihon@hosei.ac.jp <http://hijas.hosei.ac.jp/>
TEL 03-3264-9682 FAX 03-3264-9884

